

事例報告「学習成果の可視化にむけて」

■講師



小西 敏雄(松山東雲女子大学 人文科学部 教授)
広島大学理学部数学科卒業。愛媛大学大学院理学研究科数学専攻修了。2001年4月より松山東雲女子大学教授。現在、女子大学教務部長と情報メディアセンター長を兼任する。専門分野はパターン認知、統計解析、情報処理教育。



坪井 泰士(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科一般教養 教授)
広島大学教育学部卒業。専攻、教育工学、教育実践、FD。国立高専機構研修およびSPOD 派遣プログラム講師。



平尾 智隆(愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授)
専攻は教育経済学。2005年より、愛媛大学教育・学生支援機構講師。2015年4月より現職。愛媛大学では主にキャリア教育の授業を担当。主な業績:『教育効果の実証—キャリア形成における有効性』日本評論社, 2013年(編著)。

司会: 小林 直人(愛媛大学学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授)

■プログラム概要

本プログラムは、学習成果の可視化に関する設置者形態の異なる各機関の取組事例を、3名の講師からご報告いただきます。その後報告を踏まえた意見交換を予定しております。以下、各講師から報告いただく概要です。

(松山東雲女子大学 小西 敏雄)

2010年度入学生から教員免許取得に教職カルテ作成が義務化され、本学の教職関係教員から依頼でエクセルで教職カルテの入力フォームを作成した。PC教室に該当学生を集め、入力フォームをUSBメモリへ保存させ、年度末ごとに履修科目の振り返りの入力等をさせたが、USBメモリの紛失や破壊などの事故が起こった。教職カルテの効率的な管理を模索し、自力でのサーバ立ち上げを検討したが、2014年度に文部科学省『私立大学等教育研究活性化設備整備事業』にeポートフォリオシステム等を補助金申請したところ採択され、2015年度からの学習成果の可視化が可能になった。今回の発表は、2015年度に入ってから進捗状況を報告したい。

(阿南工業高等専門学校 坪井 泰士)

「主体性をもって多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていく」アクティブ・ラーニングは、高等教育においても命題となっています。ところが、アクティブ・ラーニングにおいては、学習成果の可視化は簡単ではありません。「LMS(Learning Management System)ベースの反転授業によるアクティブ・ラーニング」における学習成果可視化の取組を報告します。

1. アクティブ・ラーニングって？
2. 反転授業って？
3. 反転授業用講義ビデオのお手軽製法
4. 反転授業ALで、これが困る！
5. ここで、LMSの出番

(愛媛大学 平尾 智隆)

本報告では、愛媛大学で開講されている初年次必修のキャリア教育科目「社会力入門」の授業について紹介するとともに、「社会力入門」で導入されている学修ポートフォリオ(キャリアポートフォリオ)について紹介をおこなう。学修ポートフォリオは、学生が大学での学びや体験をどのように捉えているか、自身の体験を振り返り、自己成長につなげることを意図した教材・取り組みで、「社会力入門」はソーシャル・スキルの育成を企図した科目である。「学習成果の可視化」を行うこと意味と効果について、また限界についても議論したい。

■日時・会場

日 時 : 平成27年8月26日(水) 15:30~17:30

会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス